

編集後記

本号の特集を御覧になって、もしよい出来栄えと判断する読者諸兄姉が多ければ、この編集に多大の御協力をいただき、また自らも筆をとって下さった三島好雄氏に深謝すべきだろう。編集子らの方へまだ若干の他の執筆予定者を推挙していただいたにも拘らず、紙数の制限で一部割愛の止むなきに到り御迷惑をかけたのではないかと案じている。

末梢循環障害は古い歴史的な研究や治療法がありながら、その一方では最近の病気でもある。つまり寿命の延びと生活様式の欧米化多様化、などにより閉塞性障害、脱疽などが最近じわじわと増加しているのである。また糖尿病などという人類の大敵がこれまた減少の傾向は見られていない有様である。従ってそのような意味でこの特集の必要性が編集会議で論じられたわけである。三島氏がその豊富な自験例をもとに総論を述べておられるが自分でも何回も腰痛疾患と動脈閉塞例の誤診を見聞きしているだけに興味深く読んだところである。潰瘍や壊死がおければ誰もが気付くのであるが初期に診断が出来なくてはならないからである。安田慶秀氏らは病態生理について詳述され腓腹筋組織内の血流量の測定など研究的な進歩を示された。静脈還流障害を strain gauge plethysmography で判定するのも興味深いものであった。江里健輔氏に

よる末梢循環障害の治療法は実地医家向けであり大いに役立つ筈である。手術手技も大いに学ぶものがあつた。大川嗣雄氏らはリハビリテーション上の問題点として外科医が切断については興味を抱かず他方血管再建術を一所懸命努力するために切断の止むなきに到る時には、より高位切断となつてしまい、リハ上困難を生ずると指摘した。また高齢者の切断が増えつつありこれも義足の装着などで大変むづかしい問題となつて来ていることも強調された。吉村理氏らは25%が末梢循環障害によると指摘し一回で済まされない修正手術の必要なものが多かった点について述べた。

この企画は外科ことに血管外科医とリハビリテーション医と整形外科医が学問的にも興味の対象が少し違うことをはからずも見せてくれた結果になったが、逆に血管外科医にもこの特集を読んでもらつて、大いに理解を深めていただければと感じた。いずれにしても力作揃いであつたといえる。研究と報告など審査はますます厳しく? なっているために最近の論文は野田幸男氏らの例でもわかるように駄作は一篇もないし、症例報告も好調でどうやら編集子にとつても無駄なエネルギーがなくなったのは有難い。(以前はキーワードの忘れ、誤字その他結構ひどいものもありました)。(大井 淑雄)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
砂 原 茂 一
津 山 直 一
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
岩 倉 博 光
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
奥 川 幸 子
加 倉 井 周 一
小 島 蓉 子
齊 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 橋 勇
高 松 鶴 吉
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
土 肥 豊
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 欽
長 谷 川 恒 雄
初 山 泰 弘
福 井 圀 彦
松 村 秩
三 島 博 信
矢 谷 令 子
米 本 恭 三
渡 辺 英 夫
(五十音順)

(細田, 山田)

次号予告 (第13巻 第11号)

特 集	脳卒中のリハビリテーション	
	特集にあたって……………七沢病院	横 山 巖
	脳卒中のリハビリテーション：日米両国の比較—入院期間と機能回復を中心に……………慶大	千 野 直 一・他
	脳卒中のリハビリテーションと正常圧水頭症……………神奈川リハセンター	千 葉 康 洋
	脳卒中後片麻痺のリハビリテーションへの関節運動学的アプローチの応用……………国立大阪南病院	博 田 節 夫
	非右利きの失語症の特徴……………七沢病院	竹 内 愛 子
巻 頭 言	リハビリテーション医の役割……………九州労災病院	吉 村 理
研究と報告	片麻痺と便秘……………札幌丘珠病院	岡本五十雄・他
	型取りゲージ (conformateur) 式姿勢計による韓国青少年の立位姿勢に関する調査：特に姿勢は正因子について……………新丘専門大学	金 龍 柱・他
症 例 報 告	感覚運動発達遅滞と Shuffling について：運動療法の経験と考察……………高知県子鹿園	江口寿栄夫・他
解 説	金属製歩行補助杖 (いわゆる 1 本杖) 基準化を目ざして：杖学入門のために……………宮城県拓志園	今 田 拓
講 座	リハビリテーション医に必要な全身管理 (11) 血液疾患とリハビリテーション……………東海大	石 田 暉
	高次神経機能の評価法 (3) 失行の評価法……………弘前大・神経精神科	渡 辺 俊 三
一 頁 講 座	義肢のパーツ (11) 作業用義手……………岡山大	長 島 弘 明
学 会 報 告	第 24 回九州リハビリテーション医学懇話会……………北九州市立総合療育センター	高 松 鶴 吉